

ああ、 結婚！

—婚活日記—

第15回

黒田長宏

<2020年5月9日>

41回の原稿を投稿した。時は新型コロナウイルスの流行中で先がまだ見えてこない。

<6月5日>

新型コロナウイルスはすでに第二波なのだろうか。私は依然として勤務休みの前日の帰宅後、風呂と食事のあとすぐに部屋にこもって映画ビデオを観て、翌日ユーチューブでその感想を主に言うという繰り返しを、『婚難救助隊』という私

のライフワークを有名にするために続けている。それは継続できている。ただ、視聴者側が動かない。かなり久しぶりに某マッチングサイトでマッチングしたが、今度の人はずぐに会いたがるという、考えようによっては夢のような人だったが、婚活は出会い系サイトとかなんとかというような遊びではないと思うし、もっとメールして、お互いにわかってからという思いが私にあり、積極的な相手を抑制するような説教的なメールを返したらブロックされてしまった。大魚を逃がしたか。それともこれで良かったか。今となっては後の祭り。切り替えて次の人が現れるように応募を新たに続ける。だが、相手は38歳だったので、14歳差でも応募に応じてくれる例もあるのだということは証明されたと思う。これは収穫だ。

<6月19日>

次にマッチングアプリで反応してくれた人の言い分は、東京近郊とのことでそれで謝られてしまったが、年齢ではなかったのを希望にしておこう。婚難救助隊のFacebookでのいいね！が当初から気づけば(気づかなかった)13人にもなっていた。ありがたい。

<7月22日>

『執筆者短信』のネタができたので書いた。それ以外は休日は、婚難救助隊サイトのユーチューブでの結婚難の人たちをどう結婚できるようにするのかというアピール動画と、某マッチングアプリへの女性への応募という2大アウトプツ

トを繰り返しているだけなのだが、だからこそ日記の量は少なくなるが、基本は継続しているわけである。日記へのやる気が減ったわけではない。同様のことを繰り返している。毎日、同様、同様、と書き続けても量を費やすだけで意味を為さないと思っているからである。だから何か書く日は無理しても何か入力せねばならないと思うから、なんということもない文字列が続くだけである。今日は、執筆者短信を読めばわかるが、マイナポイントを予約したのでまだ某マッチングアプリを応募していない。実は一昨日に婚難救助隊の名刺を胸ポケットに携えて看護師エヌさん(星新一かよ)に渡そうと試みたが、ナースステーションに必ず誰かほかにて渡せなかった。職場よりも某マッチングアプリのほうが気が重くない。だが、某マッチングアプリは書き込んでくる人が2人ばかりいたものの結局断りの内容だったのである。とにかく、ユーチューブ発信とそれを頑張ろう。

<8月7日>

昨日の昼休みに普段は自家用車の中で休憩しているのだが、ガソリン給油に少し抜け出したら、都合の良い場所に他の車に入られてしまい、超超のつくほど珍しく残り20分を作業場で休憩していたら、なにやらお金がなんだかという署名がきて、なんの集金だろう嫌だなと思い寝たフリを続けていたら、住所、印鑑を押すと5万円がもらえるのだという。国からの医療従事者の慰労金とのことである。それまで駐車場ととられて

不機嫌だったのが5万円の臨時収入で吹っ飛んだ。金が入るのはうれしいことである。特別定額給付金をまたやればよいのにと思っている。

三浦春馬が自ら命を絶ったのは驚いた。30歳のイケメンスターで性格も申し分なし。身長もたしか180センチ近い人だったと思う。人気ゆえに収入だってかなりのはずだったはずだ。私など、3日で離婚されて166センチから165センチを行ったり来たりしているかどうかで、イケメンかどうかは写真かなにかで判断してもらいたいが、この3か月の間に53歳になってしまった。どう考えても命を絶ちたいくらいなのは私のほうだと思うのだが。関西には茨木市というところがあるらしいが、三浦春馬は私と同県の茨城県出身者であり、それで注目は多かった。しかし、『恋空』とか、『女城主直虎』とか、彼は死ぬ役が多かったようなイメージもある。以前、前の職場でフリーペーパーの企画営業をしていた頃、けっこう有名な美浦のトレセン付近に住むジョッキーがやはり、彼と同様に何が原因かはっきりしないことをして、驚いたことがある。表面上は明るくみせていても、心の中には辛さを抱え込んでいたのだろうか。

茨城県には茨城新聞という伝統ある新聞があり、茨城県の内容は一番情報発信を続けているところだと思うが、それでも小さな三面記事に県内のストーカー事件とか婦女暴行事件とか毎日のように出ている。そしてなぜか容疑を否認していると書かれていることを多々みる。

悪人はどこまでも悪人なのだろうか。そんな中でも、なんとか普通に暮らして悪さもしないような人達が、アラサー、アラフォー、アラフィフ、になっても男女ともパートナーがいない人が多いはずだ。某マッチングアプリでは元アイドルか女優かというようなルックスの人たちがたくさんでてる。しかし反応はない。

気づいたのは、海外旅行が好きな女性が何人も出てくる。理由は省略するがそういうところに結婚難の要因がある気もする。ビールやワインを美味そうに飲んでいる写真を掲載している人も多い。男女雇用機会均等法からの推移は、そういう女性を多く生み出してきたのだろう。そんな中でまだ終了していないが『私の家政婦ナギサさん』というテレビドラマには多少期待をしている。ヒロインの多部未華子は何度か三浦春馬と共演してきたのが悲しくもある。

今まで『婚難救助隊』のサイトにフェイスブック広告をはっていたが、ユーチューブ動画のほうに広告することに切り替えた。するとはっきり効果は感じられるもので、それまでサイトに新たに日に日に10人から20人ほどカウントが増えていたのが、1人か2人くらいになってしまった。ところが、広告に出したユーチューブのある回だけ、閲覧者数が1人くらいだったのが190回くらいになっている。実力なのか広告なのか。いや、実力を持ちながら広告しないと増えないのだろう。広告していないのになぜか11か月前にアップした若尾文子の『女は二度生まれる』の感想を語った回は突出してい

て490回も視聴されている。一体何が原因しているのだろうか。ほかに2つ、100閲覧を超えている回があるが、ゼロとか、一桁とか、何が閲覧数に作用しているのか全くわからない。わかっていれば、いまごろユーチューバーで運営できて、お世話になっている職場を去って、一日中、結婚難問題に取り組み、結婚したいのに結婚できない人を援助できる権力でも金力でもつけられるはずなのだが、そこまでのブレイクはまだまるで見えていない。しかも新型コロナウイルス騒動で新規経営者はおろか、有名大企業でさえ億の損失状態である。独立には非常に難しい時期にあたっている。それでも次回以降に期待していただきたい。連載を了承していただけて生きて意識がはっきりできるうちは連載させていただいて、ブレイクを達成して、それなら対人援助学会にもなんらかの援助を与える有力者になっていることだろう。しかし突然終了したら私の身に何かあったということだろう。そうならないように、マスク、手洗い、熱中症予防、天気予報に注意して、休日にユーチューブを一つ以上増やすことと、某マッチングアプリで婚活の応募を続けよう。

あと毎回どこかに書いておくべきだったが、最も大事なことを忘れていた。私は53歳だが、自分の遺伝子を受け継いだお子さんが諦められず、年の差婚も社会的ブームになってほしい。妊活や妊娠の仕組みなどの本を少しずつ読み始めた。こんな私でも誰でも良いというわけではないが、広瀬すずやももクロの

あーりんくらいなら申し分ないが、どなたか私でなくても茨城県にでも関心がある女性の独身の方々がいらっしゃったならば、興味が少しでもあったなら、『婚難救助隊』サイトから、黒田に関心があるということで誘惑していただけると有難いことだ。